



かわい



<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kawai/> (HP 随時更新中!)

「成功」という芽

校長 窪田 剛久

新年、明けましておめでとうございます。駒澤大学が2年ぶりに優勝を果たした箱根駅伝に始まった昨年、3月にはWBCで日本が14年ぶりに優勝、8月には第105回全国高校野球選手権大会で慶応が107年ぶり2度目の優勝を飾りました。10月には藤井聡太竜王が史上初の八冠達成、11月には阪神タイガースが38年ぶり2度目の日本一に輝きました。こうしてみると、各方面で大変素晴らしい成果が実った2023年だったと言えるでしょう。

その反面、気になる残念なこともいくつかありました。特殊詐欺グループによっていわゆる「闇バイト」に応募した若者が犯罪加害者になってしまったこと、学生が薬物に手を染め、犯罪者となってしまったことなどです。大手事務所代表が未来ある若者を搾取し続けていたことも明るみに出て、世間を騒がせていました。すべての若者が明るい未来を夢見て、自信をもって成長し活躍していける、そうした社会を実現していきたいと心より思います。今年は若い世代にとって将来の夢を持てるような明るい年となるように祈るばかりです。

2024年は辰年ですが、本来の干支でいうと甲辰(きのえ・たつ)。辰年であること以外にも込められた意味があります。「甲」が持つのは第1位であり、優勢であることを表す他、まっすぐに堂々とそそり立つ大木を表しています。「辰」は十二支の中では唯一の架空の生き物、龍(竜)を意味します。水や海の神として祀られてきた龍は、竜巻や雷などの自然現象を起こす大自然の躍動を象徴するものであり、「龍が現れるとめでたいことが起こる」と伝えられてきたそうです。この2つの組み合わせである甲辰は、「成功という芽が成長していき、姿を整えていく」といった縁起のよさを表しているそうです。

昨年5月、新型コロナウイルス感染症が「5類」に移行し「アフターコロナ」の生活が始まりました。それまでの制限は次々と撤廃され、本校でもコロナを通して形を変えたもの、時期を変えたものもありますが、ほぼ日常生活を取り戻しています。開催を春に移した「全校遠足」から始まった「たてわり活動」や、夏休み前に宿泊行事を3学年行うことによって、早い段階で友だち同士の繋がりを強め、コミュニケーションを活性化しました。夏休み明けからは10月に「運動会」、12月に「音楽会」を計画・実施することで、夏休み前に培った絆を十分に生かしながら、常に目標に向かって学校生活を充実させることができました。子どもたちにとっては、まさに「成功」体験を得やすい1年だったと思います。成功体験は子どもたちの自尊心を育て、明るい未来を切り開いていく力を育むものと考えます。



さて、横浜市では今「架け橋プログラム」の研究を始めています。「架け橋プログラム」とは年長から小学校1年生までの2年間で「架け橋期」とし、その2年間のカリキュラムを充実させることで、未来に向かって生き生きと生活し学ぶことができる子に育てようとする試みです。年長の子供たちは、年中、年少の子供たちから見れば、たくさんを知っている、何でもできるお兄さん、お姉さんたちです。幼保での「成功」体験によって身に付けた自信や自尊心を小学校入学と同時にリセットするのではなく、その自信と自尊心の上に小学校の生活、学習を接続していこうとしています。

このように、子どもたちは幼いころから日常の中で多くの「成功」体験を積み重ねて成長しています。すでにいろいろなことを知っていて、たくさんができるのです。そこに光を当て、さらに自尊心を伸ばすことができれば、ネット世界に閉じこもり「闇バイト」に手を出したり、薬物の誘惑に負けたりはしないのではないでしょうか。大人から搾取されない強い心を育てるかもしれません。今年は昨年得られた「成功」の芽を育て、そそり立つ大木まで自信をもって成長できるような若木を育てていきたいと思ひます。かわいっ子たちの自尊心が大きく、大きく育っていけるように、ぜひ皆様には今までと変わらず、温かいお力添えをいただきたいと思っています。今年もよろしくお願ひいたします。